

臨川寺領加賀國大野庄白山段米事、所免除也。早任先例可停止神人等亂入狼藉之狀如件。

應永十七年十二月廿六日

內大臣源朝臣 在判

【天龍寺文書】

七四七

臨川寺雜掌申加賀國大野庄白山段米事、任先例可止催促之旨、可被相觸之由所被仰下也。仍執達如件。

應永十七年十二月廿六日

左衛門佐入道殿

【天龍寺文書】

七四八

臨川寺領加賀國大野庄白山段米事、去年十二月廿六日任御判、同日御施行之旨、可令停止催促之由、可相觸之狀如件。

應永十八年二月十七日

二宮信濃入道殿

應永十八年 辛卯

紀元二〇七一

三月十七日 足利義持、山城寶幢寺に、同寺領加賀郡倉月莊松寺村・赤濱村等を安堵せしむ。

【鹿王院文書】

七四九

此所々爲兩寺領當知行云々、永代領掌不可有相違之狀如件。

應永十八年三月十七日

內大臣源朝臣 在判

寶幢寺領

加賀國倉月庄松寺村・赤濱村

(中略)

鹿王院領

越中國井見庄領家職

(中略)

應永十八年辛卯三月日

四月三日。能登守護畠山滿慶、鳳至郡鵜河保の

ことに就いて幕府に答申す。

【吉見文書】

七五〇

能登國鵜河保爲<sup>(備稱之)</sup>□□内否事、任御教書之旨相尋候之處、代官祐信注進如此候。令執進覽之候。以此旨可有御披露候。恐惶謹言。

四月三日

沙彌道祐 在判

進上 御奉行所

六月朔日。石川郡金劔宮住侶超衡、同宮に、大般若經を寄進す。

【金劔宮舊藏大般若經奥書】

七五一

大般若波羅蜜多經卷第四十三 石川郡 以件摺寫、奉施入當社寶殿矣。冀經王功力周遍于十方、無邊之群類預巨益、畢竟空惠廣敷于法界、無量之含識獲勝利、殊社中攘災招福樂、藉此滿足、施主現當望於茲成就而已。

應永十八年卯六月朔日

加州白山金劔太神宮住侶權律師超徽<sup>(衡力)</sup> 白敬

八月廿八日。足利義持、山城伏見稻荷社に、社領石川郡針道莊を直務せしむ。

【伏見稻荷神社文書】

七五二

稻荷社領加賀國針道庄事、於代官職號帶先神主契狀、雖有申族、任當知行之旨、自今以後致直務、可專神用之狀如件。

應永十八年八月廿八日

內大臣源朝臣 在判

十月朔日。尼めうほん、天野慶景に、羽咋郡土田上村半分の地頭職を讓與す。

【天野文書】

七五三

ゆづりわたす、のとのくにつちだの上むらはんぶんのちとうしきの事。

右所りやうは、めうほんたうちぎやうのちなり。まかるにあまのゝひこ二郎をやうしとして、御くだしぶみ、同<sup>(慶景)</sup>たう御だいの御くだしぶみこれあり。だいくのてつぎのせうもんをあいそゑて、ゑいたいゆづりわたすところ